



学校だより

3月号

横浜市立大道小学校
令和4年2月28日



← 学校 WEB ページはこちらから

校長 加藤 和之

「自分が変わった」

寒さの中にも、春の訪れが感じられる今日この頃です。今までと変わらず気温は低いのですが、日差しが心なしか暖かいのです。こんな変化を感じると、「♪もーすぐ はーるですねぇ」と、思わず口ずさみたくなります。「誰の曲?」、もちろん「キャンディーズ」です。

相変わらず、感染者数が減らない中、保護者の皆様には大変ご心配をおかけしています。ご家庭でも、いつも以上にお子さんの体調にご留意いただき、本当にありがとうございます。

こんな状況ですので、子どもたちは、様々な制約の中で学習をしています。そして、予定していた「授業参観・懇談会」を中止せざるを得なくなったこと、「保護者の皆様への、感謝の気持ちを伝えたい。」と考えていたのに、合奏の練習が思いっきりできないこと、もうすぐ大好きな6年生とのお別れなのに、「なかよし活動」ができないことなど、残念に思うこと、もどかしく思うことがたくさんあります。しかし、そこは「大道っ子」、明るい笑顔、元気な挨拶、友達と仲良く遊ぶ姿は変わりません。校内を回ると、どの教室でも一生懸命に学習に取り組んでいます。こんなに頑張っている子どもたちのために、何とかよい形で、学年の締めくくりをさせてあげたいと思っています。

さて、先日6年生の「卒業文集」を読みました。「思い出に残ったこと」などを綴った作文を読むと、「本当に楽しかったんだな。」「よく頑張ったなあ。」と、こちらまで嬉しくなります。一方で、今年の文集で印象に残ったのは、「自分の成長」について書いた作文が多かったことです。

「今までは、宿題は仕方なくやっていた。しかし、『勉強は楽しまなきゃ。』という先生の言葉を受け、自分で興味をもったことに毎日取り組んだ。すると、本当に楽しくなってきた。」「今年の運動会は、今までと違い、何でも自分から進んで動いた。(中略)自分の組が勝った時、今までで一番の喜びを感じた。」「日光修学旅行では、班の友達と声をかけ合って行動することができた。自分の役割を果たすということ、協力するということの大切さを学んだ。」これらは、要約したもので、実際に書かれた文章ではありませんが、「自分が変わったこと」「成長したこと」などを自分の言葉で表現していました。私は、これにとっても感心しました。

子どもが、自分を振り返り、「変容」を自身で認識することは、とても大切だと思います。「変容」は、たまたまそうなったのではなく、「考え方が変わったから」「方法を変えたから」など、何らかの理由があります。それを「以前は～～だったが、～～にしてみようと工夫したら、～～することができるようになった。」というように、「前」と「今」を比較しながら子ども自身が分析し、表現することが、その子のさらなる成長につながります。「自己肯定感」を持ちながら、「やればできる。」「チャレンジしてみよう!」と前向きになります。6年生が、新しく始まる中学校生活に向けて、このように自分を見つめ直し、「よりよい自分」に向けての一步を踏み出す準備をしているのは、とても素晴らしいことだと思いました。そんな6年生が、3月18日に卒業式を迎えます。旅立ち寂しくもあるのですが、心を込めて見送りたいと思います。

本年度も、皆様にご支援をいただきました。本当にありがとうございました。